

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>

第175号 会 報 2002年 4月 30日

目 次

第21期副会長選挙結果	1	国際学术交流外国人招聘の募集	9
副学会長拝命の御挨拶	1	研究助成・学術賞等の募集	9
第215回運営委員会報告	2	関連研究会のご案内	10
学会内規の改正	3	『特集：分科会報告』	11
極地研究連絡委員会報告	4	人事公募	20
極地研統合問題への要望書	5	新規学位取得者リスト	21
2002年合同学会日程	7	名簿改訂のお知らせ	24
国際学术交流事業補助金受領の報告	8	訃報	24
深尾昌一郎会員『島津賞』を受賞	9	SGEPSS Calendar	24

第21期副会長選挙結果

平成13年11月24日改訂の地球電磁気・地球惑星圏学会規約および内規に基づき、平成14年2月に行われました副会長選挙の結果、藤井良一会員が第21期副会長に選出されました。

開票結果は下記のとおりです。

投票総数： 130票（無効票なし）

順位	氏名	得票数
1	藤井良一	37
2	本蔵義守	33
3	上出洋介	20
4	福西 浩	12

（以上）

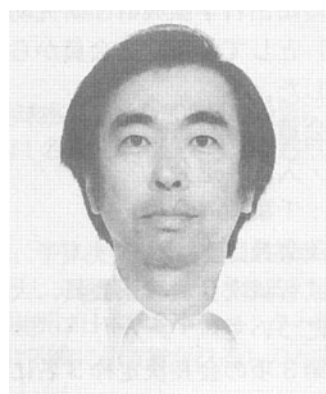
副学会長拝命の御挨拶

名古屋大学太陽地球環境研究所
藤井良一

長い伝統のある本学会の副学会長に選ばれましたことを大変光栄に感じております。選挙の結果は大変思いがけないもので、副会長をお引き受けした場合、学会にどのような貢献ができるのか、バランスをどう考えるか、私より年長の年代の指導

分科会報告を特集しました（11~19ページ）

的な立場の先生がなられた場合と比較して学会に与えるメリットとデメリットはどのようなものか考えられるかなど、長期間悩みに悩みました。しかし、今回の結果は、今後の学会のためにしっかりと働きなさいという天の声であると考え、引き受けさせて頂くことにしました。大変未熟ではありますが、荒木学会長の補佐として、夢と展望のある学問領域の伸展、学会の発展に微力乍ら全力を尽くさせて頂きたいと考えております。御支援宜しくお願い申し上げます。



第 2 1 5 回運営委員会報告

日時： 2002年3月8日 17時30分 - 21時30分

場所： 国立極地研究所第一会議室

[出席] 荒木徹、藤井良一、麻生武彦、家森俊彦、井口博夫、歌田久司、大村善治、小野高幸、小原隆博、品川裕之、中村正人、橋本武志、松岡彩子、山崎俊嗣、渡部重十、早川基（補佐）

[欠席] 網川秀夫

議題

1. 前回議事録確認

第214回議事録を一部訂正の上、承認した。

2. 副会長選挙結果の確認と総括

副会長選挙開票結果および、その結果に基づき、藤井良一会員が第21期副会長に選出されたことを確認した。藤井副会長より着任の挨拶があった。副会長選挙結果の公表の仕方については、投票総数の5%以上の得票者、あるいは、それが4名に満たない場合には、最多得票順に第4位までを、会報および学会ホームページに掲載することにした。なお、評議員、運営委員の選挙結果の公表についてはこれまでどおりとする。

（開票結果）P1を参照願います。

3. 長谷川永田賞受賞候補者選考委員会の設置

長谷川永田賞受賞候補者1名の推薦があり、網川秀夫（委員長）、大村善治、中村正人の3氏で構成される選考委員会を設置した。

4. 国際学术交流若手派遣候補決定

下記3名を派遣することに決定した。

笠羽康正会員 8/16-8/26 第27回URSI総会出席・講演（オランダ）

梅田隆行会員 8/17-8/24 第27回URSI総会出席・講演（オランダ）

吉川一朗会員 4/20-4/26 第27回EGS総会出席・講演（フランス）

5. 研究助成学会推薦決定

平成14年度山田科学振興財団研究助成学会推薦（2件以内）として、下記2会員からの申請書の推薦を承認した。

乙藤洋一郎会員 大村善治会員

6. 会員異動・入会・退会

シニア会員：千葉敏み会員。

退会：宮崎茂会員。

新入会員：武智誠次会員（正会員、大阪市大）

7. 学会内規について

内規第2条第3項の会長決定枠3名について、研究分野のバランスを考慮するかどうかについて

議論した。学会のスムーズな運営および学会へ求心力を維持するためにも、この3名の運営委員の選出には研究分野のバランスも考える必要性があるという意見に基づき、「新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員会所属機関のバランスを考慮し」を「新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員会所属機関等のバランスを考慮し」と改正することに決定した（次ページ参照）。

8. 「要望書」提出報告

会長より、昨年12月6日付けで遠山敦子文部科学大臣に提出した「宇宙3機関の統合に関する要望書」および、本年1月31日および2月6日付けで、それぞれ渡邊興亜国立極地研究所長と遠山敦子文部科学大臣に提出した「国立極地研究所の改革に関する要望書」に関する報告があった。

9. 学術会議登録関係

日本学術会議第19期会員選出に必要な学会登録における関連研究連絡委員会としては、前回同様、地球物理学研連、天文学研連、電子・通信工学、航空宇宙工学の順で順位を付けて登録することした。学会登録の際、今回から学会構成員の男女別会員数を記入することになった。これは、女性会員を増やすことを目的としているとのことであり、今後、当学会入会申込用紙に男女記入欄を設け、学会事務センターのデータベースにも男女欄を追加することにした。

10. 諸報告

(1)会費徴収は順調で、既に予定を約30万円超えている。また、国立情報学研究所に登録したデータベースの登録料として約34万円の収入があった。

(2)EPS運営委員会で議論した結果、会員追悼文をEPS誌に掲載する場合の基準について、基本的には、特集号を組むことが条件となる。EPS賞の設置については既に決定しており、編集委員会で選考される。

(3)合同学会の準備はすべて順調に進行している。

(4)学会ホームページのトップページをより見やすくするために全面的に改定された。

11. 役割分担

学会ホームページ上に、運営委員会メンバー全員の最新の役割分担を掲載することにした。

12. 次回会報

各分科会1ページ程度で、分科会記事を集めることにした。次回会報は、4月10日原稿締め切り、下旬に発行予定。

13. その他

賛助会員の勧誘の方法および学会名の変更に関する議論の進め方について議論した。（以上）

学会内規の改正

地球電磁気・地球惑星圏学会内規

平成 14 年 3 月 8 日改正

- 第 1 条 本会の事務所は日本学会事務センターにおく。
- 第 2 条 役員選挙は次の通りとする。
1. 副会長の選出は単記無記名投票で行う。ただし、最高得票者が 2 名以上ある場合には最年長者が副会長に就任する。
 2. 評議員の選出は 9 名連記無記名投票を行い、得票数の順位に従って上位 9 名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。
 3. 運営委員については下記の様式に従い 11 名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位 11 名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮し、新副会長、新旧運営委員と協議の上、定数 14 名の残り 3 名を選出する。
主として地球惑星内部・固体物理学を研究する会員から 3 名
主として地球惑星大気圏・超高層・宇宙空間物理学を研究する会員から 3 名
全会員の中から 5 名
ただし同一人を評議員と運営委員に重複して記載してもさしつかえない。なお、3 期連続運営委員経験者は次期の運営委員として選ばれても辞退することができ、通算 5 期経験者は再任を永久に辞退することができる。これらの氏名は選挙に先立ち全会員に通知する。
 4. 正会員は 2 名以上の他の正会員により推薦された場合、運営委員に立候補することができる。また、運営委員会は運営委員候補者を推薦することができる。学会はこれらの運営委員候補者の氏名、勤務先、研究分野、推薦者名などを選挙広報に掲載し、投票に際しての参考資料とする。
 5. 前項の選出において、もし同一人が 2 種以上の役員に当選した場合は、本人の意思によりその一つを選ばなければならない。
 6. 前項のために定数に欠員が生じたときは、第 3 条に定めるところに従って欠員を補う。
- 第 3 条 1. 副会長が欠けたときは、次点者で補う。
2. 評議員が欠けたときは、次点者で補う。
3. 運営委員が欠けたときは、会長が副会長、運営委員と協議の上、委員を選出する。
- 第 4 条 会費納入および未納入会員の取扱について
1. 会費の納入は原則として各年度の第 1 四半期（4～6 月）に全額納入すべきものとする。
 2. 未納会費納入勧告をしたにもかかわらず会費を 2 年連続滞納した場合には、期限をつけた最終的会費納入勧告を送り、その期限内に会費納入または納入の意志表示がなければ退会を希望するものとみなす。
 3. 一度退会した会員は新たに入会申込手続きをとれば再入会しうる。
- 第 5 条 科学研究費審査員候補者の推薦を依頼された場合、その都度運営委員会で投票により正会員の中から候補者を推薦する。
- 第 6 条 日本学術会議会員候補者および会員推薦人の選出について
1. 日本学術会議会員候補者および会員推薦人は、本学会正会員の投票により選出される。
 2. 上記選挙にかかわる被選挙人は、運営委員会および評議員会の議を経て、それぞれ複数名決定される。
 3. 選挙の結果、次の事態が生じた場合は運営委員会の議を経て会長が決定する。
 - (1) 会員候補者と会員推薦人が同一人となった場合。
 - (2) 同点得票のため決定できない場合。
 - (3) 辞退者が現れる等問題が生じた場合。
- 第 7 条 地球電磁気学研究連絡委員会等委員候補者の選出について
地球電磁気学研究連絡委員会等委員候補者は、地球電磁気・地球惑星圏学会正会員の投票により正会員の中から選出する。但し、地球電磁気学研究連絡委員会委員の内 1 名は地球電磁気・地球惑星圏学会会長もしくは運営委員をもってあてる。
- 第 8 条 学会基本資料の継続的管理について
1. 学会会報、各回運営委員会議事録、講演会・総会プログラム、予算決算書、各会員名簿および学会誌は、その一部ずつが地球電磁気・地球惑星圏学会基本資料として継続的に保管される。
 2. 継続的保管の任務には運営委員会があたり、基本資料の保管場所は日本学会事務センター地球電磁気・地球惑星圏学会資料棚とし、保管内容は各期運営委員会毎に明確に引き継がれるものとする。

極地研究連絡委員会報告

第18期・第3回委員会

日時：平成13年12月14日（金曜日）

議事：

1. 前回以降の極地研連事務対応について報告
2. 学術会議関係報告
- 1) 幹事から科研費複合領域への分科細目申請につき、平成15年度系・分野・細目表が公表され、その説明会に参加したこと、キーワードの追加提案を含む極地研連からの意見書を提出したこと、事務局から、学術会議から修正案が提出され、極地研連の提案したキーワードは概ね採用されていることなどの報告。しかし、最終的にどのようなかは不明。
- 2) 新たな分科細目「極域科学」創設のためのアンケート結果が幹事から説明され、科研費は、今回の見直しは小幅に止め、近い将来に大幅な見直しがある可能性が高いので、研連として継続的にこの問題に取り組んでいくこととなった。
3. 南極関係
- 1) SCARの組織再編と第27回SCAR総会（上海）について
第27回SCAR総会では、組織再編問題が焦点となり、執行委員会案「Implementation of the SCAR review」が出された。日本の国内委員会である極地研連としての見解を次回に検討する。
- 2) 7月に開かれた南極条約協議国会合(ATCM)、8月に開催された第13回南極観測実施責任者評議会(COMNAP)、8月のアムステルダムでの南極生物国際シンポジウム、11月に開催された第20回南極海洋生物資源保存委員会(CCAMLR)などの報告
4. 北極関係
- 1) 10月に開催されたIASC、北極ロシア国際科学イニシアティブ(ISIRA)について、幹事から報告
- 2) 麻生委員から11月に開かれた第7回EISCAT評議会の報告。
- 3) 藤井委員から「北極科学観測ディレクター2001」が出版されたことが報告。
これは極地研連の活動成果のひとつとして編纂され、国立極地研究所北極圏環境研究センターが出版したもの。
5. 研連の見直しについて
11月29日第4部長より研連見直しに関するアンケートが出され、すべての研究連絡委員会に3年という期限を設け、場合によっては専門委員会にすることなどで、5-6の空き研究連絡委員会を作るなどの提案に対し、当研連の対応を議論。学協会等

のバックをもたない極地研連としては、SCARやIASCの国際対応とともに「極域科学」の確立を進めるために、今後も引き続いて研連として継続していく必要があることを確認。

IV. その他

1. 南大洋の海洋観測について
南極における専用観測船利用計画のパンフレットが配付され、今後の見通しを議論。

第18期・第4回委員会

日時：平成14年3月18日（月曜日）

議事

2. 学術会議関係
委員長から科研費補助金審査委員候補者の推薦について経過説明。3月8日の合同会議で、平成15年度からの新たな分科・細目表に伴い、
 - 1) 候補者の推薦は細目ごとに対応研連の合議で決める
 - 2) 極地研連は6細目に関与
 - 3) 5月31日までに最終的な候補者を窓口研連から推薦
 - 4) キーワードの追加提案は、毎年見直しが可能である等が明らかになった。今後の方針として、
 - 1) 極地研連委員の選出方法をより明確化し、官庁からの委員（気象庁、水路部、国土地理院）については官職指定を確認。
 - 2) 極地研連として、新たな科研費補助金審査委員候補者の推薦方法を提案するために、広く研究者の意見を求める。
 - 3) 今後、極域科学に関わる広い分野の研究者のデータベースを構築していくこと等とした。
 3. 我が国の極域研究体制について自由討論を行い、「オールジャパンの研究者の組織として極地研究連絡委員会を機能させることが肝要」、「国際対応として、国家間の協定に基づく研究について対応すべき」、「北極研究について、極地研の北極特別委員会と極地研連の役割を明確に理解する」等の意見が出され、研連は現今の急激な状況の変化に対し常に研究者としての立場から対応していくことを確認した。
- IV. その他
1. ペルーのSCARへの加盟申請について
準加盟国であったペルーから正メンバーの申請がなされ我が国としては加盟を支持する事にした。
 2. 南大洋の海洋観測について
南極観測事業として今年度初めて実施した専用観測船による南極海の観測が無事終了した旨の報告。
(麻生報告)

極地研統合問題への要望書

「国立極地研究所の統合問題についての経緯」

政府は昨年12月に遠山大臣と石原大臣との会談を受けて、特殊法人など整理合理化計画案を示しましたが、その中に他の法人との統合を含め廃止とされるものとして「海洋科学技術センターが、「国立大学の改革の動向を踏まえ関連する大学共同利用機関等との統合の方向で見直す」とされました。これに関連して、12月13日、国立極地研究所長に対し、所管の文部科学省研究開発局よ「関連する大学共同利用機関」は国立極地研究所を想定しているとの伝達がありました。

これに対して、翌日所内で緊急に臨時運営会議が開かれ、「今回の特殊法人等の整理合理化に、大学共同利用機関であり、総合研究大学院大学極域科学専攻を担任する基盤機関たる本研究所が、これにかかわることについては全く理解できない、とくに現在国立大学改革の一環として大学共同利用機関のあり方が検討され、全機関一法人化の方向が所の意思として出されており、大学一体性と大学共同利用をその存立基盤とする本研究所が全く理念の異なるものとの統合によりその存立に重大な影響を受けることに対して慎重な検討と配慮を望む」旨の意見が表明されました。これに続いて、1月8日に国立極地研究所運営協議員会が開催され、ここで、「設置目的の異なる同センターと極地研の活動の重複は無く統合の意味がないこと、国立学校設置法により設置された大学共同利用機関である極地研と、きわめて異なる性格のセンターとの統合は、教育機関、南極観測実施中核機関としての機能に重大な影響を及ぼし混乱を招くだけである」等の趣旨でこの統合案に対する強い危惧が表明されました。

さらに、1月16日には国立極地研究所評議員会が開催され、「所の意見および運営協議員会の意見が十二分に理解できること、極域科学など総合的な研究分野においては大学等の研究者の協力による研究プロジェクトの推進が肝要であり国立極地研究所の大学共同利用機関として、また極域科学分野の大学院教育等の充実が重要であること、さらに最近の構造改革の動きに伴って取り沙汰されている本統合については、学術関連審議会、関係学会、研究コミュニティ等の意見を十分に徴し、慎重な検討を望むものである」等を骨子とする「国立極地研究所の大学共同利用機関並びに総合

研究大学院大学基盤期間としての存続・充実について要望書」が文部科学大臣宛て出されました。

(麻生武彦)

「要望書の提出について」

上記の経緯にありますように、昨年12月中旬に極地研究所の統合問題が急浮上してきました。

これは、南極観測立案に先輩諸氏が主導的に関わり、第一次南極観測隊(1957年、晴海埠頭出発)に永田武隊長以下小口高、大瀬正美、北村泰一、小玉正弘、中村純二、百瀬寛一隊員を送って、以後も、極地観測で中心的役割を担ってきた当学会にとって、これまでの大学共同利用体制に基ずく極地研究が続けられるか危惧される事態でありました。

事態はかなり切迫していると判断されましたので、先の宇宙3機関統合問題と同じく、学会の要望書提出を評議員会、運営委員会に提案して了承を得、小野高幸、麻生武彦両運営委員と藤井良一会員からなるワーキンググループ(WG)に原案作成をお願いしました。WGは、小野氏をまとめ役として活発な意見交換を行い、極地研所長宛の要望書を完成させましたので、これを1月31日付で提出しました。

一方、学術会議の極地研究連絡委員会委員長・海洋科学委員会委員長、総合研究大学学長、日本気象学会会長、日本雪氷学会会長から文部大臣宛の要望書が提出されることになったので、当学会でも大臣宛のものを用意することにし、再度WGをお願いして作って頂きました。

2月14日、島村英紀極地研連委員長、田中正之気象学会代表、小野延雄雪氷学会会長と私が文部科学省を訪れ、今村研究開発局長、遠藤研究振興局長に各組織の要望書を手渡し、それぞれ約1時間会談しました。

年度末のお忙しい中、要望書作成に時間を割いて頂いた小野、麻生、藤井のお3方に(特に、まとめ役の小野さんに)感謝いたします。

(荒木 徹)

国立極地研究所の改革に関する要望書

平成14年2月6日

遠山 敦子 文部科学大臣殿

地球電磁気・地球惑星圏学会長
荒木 徹

全国の大学や研究機関に所属する研究者によって構成される本学会は、1947年に創設され、地球内部電磁気、地球電離圏、磁気圏、オーロラなどの研究で世界の学界をリードする活動を行ってきました。極域における多様な自然現象は本学会員による主要な研究テーマの一つであり、特に南極におけるオーロラ現象、大気の物理・化学に関する研究において、国立極地研究所が実施する南極地域観測は、本学会員が自由に独創的な研究を行う上で他に代わることのできない重要な役割を担っております。

昨今の構造改革という国の政策の下、国立極地研究所と認可法人との統合問題が検討されていると伝えられています。緊急の行財政改革を必要としている国の逼迫した状況は大いに憂うところがありますが、経済界の要望で設置された認可法人との統合は、設置目的や機能、研究成果の評価などが相互に異なる組織であることから、研究者の要望で設置された研究所が持つ本務の遂行には大きな障害がでると懸念します。本学会としては、国立極地研究所に付託された役割の重要性にかんがみ、下記の点に十分考慮して対応下さるよう要望します。

1. 国立極地研究所は、本学会の創設時代の先輩方などによる指導と大学を中心とした研究者の強い支持のもと、文部省学術審議会の建議を経て、1973年に大学設置法により設立された大学共同利用機関であります。このため、研究所の施策や研究プロジェクトは、大学や研究機関の学識経験者から構成される、評議員会、運営協議員会、各種専門委員会等での議論を基に決定されてきました。研究機関の構造改革に向けては、国立大学の法人化に対応する直轄研究所再編も検討されているところですので、国立極地研究所の問題につきましても、文部科学省下の科学技術・学術審議会や総務省・日本学術会議での関係する研究連絡委員会で行われる学問的討議を尊重され、全国の大学等の研究者からの支持が得られる方法が採られますよう要望します。

2. 南極地域観測は、宇宙観測や大型天文台等と並ぶ、我が国の学問の水準を支える重要な基盤の一つであります。たとえば、1957-58年の国際地球観測年(IGY)における第1次日本南極地域観測隊から始められたオーロラ観測は、国際磁気圏研究計画(IMS、1977-78年)、国際中層大気研究計画(MAP、1984-85年)、太陽地球系エネルギー

国際協同研究計画(STEP、1990-95年)での昭和基地における地上観測やロケット観測、北極との共役点観測などを通じ、我が国の超高層物理学研究が世界のトップレベルに追いつき、世界をリードしてゆく大きな原動力となりました。特に近年では太陽活動の変動が地球周辺の宇宙環境を大きく変え、時には宇宙や地上における人間活動にも影響を及ぼすことについての研究も始められています。また他の学問分野においても、オゾンホール発見、南極隕石研究、40年にわたる定常観測による地球全体の環境変動の検証など、長年にわたる地道な基礎研究の末に、社会にも認められる重要な成果が生み出されています。これらの成果は、効率を重視して短期の問題解決を志向する研究体制からは生まれず、また、基礎研究に対して一般の事業法人における短期目標達成度の量的評価方法をあてはめることは困難です。これまでの学問発展の歴史を見る限り、基礎研究においては研究者相互によって厳しい評価・選定を行うことが最良の方法であります。従って、研究所改革においても、長期的な基礎研究を支える体制が維持されることを希望します。

3. 国立極地研究所は大学と同じ教官組織による教育制度を持っています。多くの大学院生が研究所の教官から専門的な教育を直接受けて、極域科学の研究者として育っており、研究所の持つ教育制度は大学に対しても重要な貢献をしています。一方、研究所の教官は総合研究大学院大学極域科学専攻を担任し、総研大を軸とした後継者育成も行うことで、教育者としても一般大学との対等且つ円滑な人事交流を可能とする属性を持っています。従って人材の育成や交流の観点から、研究所が持つ教育制度が損なわれないよう要望します。

以上のように、国立極地研究所が持つ大学共同利用機関としての研究プロジェクト実施機能や教育制度は、研究所の創設において全国の研究者から付託された重要な任務であること、更に、大学共同利用機関の統廃合のような重要問題については、科学技術・学術審議会や日本学術会議での審議を経るのが原則であることから、研究所統合の問題につきましては上記の事柄をふまえて慎重にご検討いただくよう要望します。

以上

2002年地球惑星科学関連学会合同大会(5/27-31)

- SGE PSS レギュラーセッション日程 -

(講演発表日時・場所)

太陽圏	5/27(月) PM1, PM2	@C311
磁気圏・電離圏結合	5/28(火) AM1, AM2, PM1, PM2 AM1	@C311
	5/29(水) AM1	@C311
磁気圏物理	5/29(水) AM2, PM1, PM2	@C311
地球内部電磁気学	5/29(水) AM1, AM2	@IC
宇宙プラズマ	5/30(木) AM1, AM2, PM1	@C501
大気圏・熱圏下部	5/30(木) AM1, AM2, PM1	@C304
地磁気・古地磁気	5/30(木) AM1, AM2, PM1	@IM1
電離圏・熱圏	5/31(金) AM1, AM2	@C311
宇宙・惑星観測技術	5/31(金) PM1, PM2	@C311
宇宙天気	5/31(金) AM1, AM2, PM1, PM2	@C304

* AM1(9:00-10:30), AM2(10:45-12:15), PM1(13:30-15:00), PM2(15:45-16:45)

* ポスター発表が口頭発表日と異なるセッションがありますので、合同大会ホームページで確認してください。

<http://www.epsu.jp/jmoo2002/>

(総会・その他の会合)

総会	5/30(木) 15:15-16:45	@C310
外圏会	5/27(月) 12:00-13:30	@C304
金星分科会	5/27(月) 18:00-19:30	@C304
中間圏・熱圏・電離圏研究会	5/28(火) 12:15-13:30	@C304
グローバル地磁気観測分科会	5/29(水) 12:00-13:30	@C507
アラスカロケット実験研究会	5/29(水) 16:00-19:00	@C507
CA研究会打ち合せ会	5/29(水) 17:00-18:30	@C510
運営委員会	5/28(火) 18:00-21:00	@C104
評議員会	5/29(水) 18:00-21:00	@C104

国際学術交流事業補助金受領の報告

東北大学 三好由純

このたび、本学会の国際学術交流事業の補助を受けて、昨年12月10日から15日までSan Franciscoで開かれたAGU Fall Meetingに参加させていただきました。私にとって、AGUのregular meetingへの参加は初めてであり、多くの方々から「ぜひ、行くといい」と勧められておりましたので、このような貴重な機会を与えていただきました学会および関係者の方々に心からお礼申し上げます。

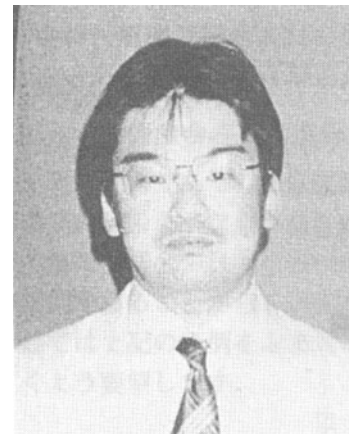
私は、これまで磁気圏における高エネルギー粒子の生成、消滅および加速過程の理解を目的として、放射線帯電子の時間変動現象、特に磁気嵐時の外帯再形成過程に注目したデータ解析およびシミュレーションを行ってきました。その結果、磁気嵐主相で消滅した外帯相対論的電子が回復相で出現する過程は、放射線帯粒子輸送の古典的概念である断熱的なradial diffusionのみでは説明が困難であり、非断熱的な加速過程が放射線帯内部に存在する必要があること、またプラズマ波動による粒子加速過程が、その非断熱的な加速を担っている可能性があることを示しました。この磁気嵐時の変動の研究を進める過程で、太陽活動周期といった長い時間スケールにおいて、放射線帯粒子はどのような時間・空間変動をするのかについて、興味を持つようになりました。放射線帯に関しては、近年「宇宙天気」の一環として活発に研究が進んでおりますが、その多くが「磁気嵐」時の変動を対象としており、さらに長い時間変動については、意外なことに静止軌道領域の“点”での観測以外、これまでほとんど報告がありません。そこで、今回、約20年間にわたる放射線帯粒子の連続観測データを用いて、放射線帯全域における変動の様相の詳細な解析を行いました。その結果、放射線帯には内帯から外帯における全領域にわたって太陽活動周期での時間変動があること、また太陽活動に対するその変動の位相は粒子のエネルギー及びL値に大きく依存していることを明らかにしました。さらに、太陽活動に応じて、外帯が空間構造そのものを大きく変化させていることも見出しました。これらの結果のうち、特に外帯の空間構造の長期時間変動は、従来の理解からは予想外のことであり、現在、様々なシナリオによるシミュレーションを行うことで、変動のコントロールパラメータについて検討を行っています。AGUでは、その経過報告という形で、主として解析の結果から見てきた長期変動の特徴等について発表を行いました。

今回のAGU Fall Meetingでは、放射線帯だけで独

立したセッションが設けられ、内部磁気圏・放射線帯の研究を専門とする方々が数多く参加されていました。私の発表に対して、なかなか会えない放射線帯を専門とする研究者の方々から直接コメントをいただくことができ、今回見出した長期変動現象を究明していく際の有益なヒントとなりました。また、放射線帯研究の最新の動向、特にシミュレーション研究の進展を目の当たりにすることができたことは、今後の研究の方向を考えていく上で大きな糧となりました。一方、私は、学生の頃より木星磁気圏の研究も行っておりますが、今回のAGUではガリレオ探査機のPIによる総合的な発表が行われており、こちらも日本では見ることのできないたくさんの興味深い結果に接することができました。

ところで、私は口頭での発表でしたが、AGUに参加して何より衝撃を受けたのは、そのポスター発表でした。会場の規模は想像していた以上のスケールで、ポスターの充実ぶりには圧倒されるばかりでした。また、ポスター会場は十分に議論できるように配慮されたスペースが確保されていましたし、常にあちこちでポスターを前にした議論が展開され、著名な先生がとてども丁寧にポスターを説明して下さる様子も印象的でした。もちろん、大規模であるが故のマイナスの面といったものも目に付きましたが、それ以上に、regular meetingでこのような充実したポスターセッションが開かれていることに、ある種のうらやましさを感じました。私のような“駆け出し”の研究者にとって、このような大きな学会はとても刺激的で、ぜひ「また参加したい」と強く思っています。

最後に、本国際学術交流事業によりこのような貴重な経験ができたことに重ねて深謝致し今後も多くの若手研究者が活用されることを期待致します。



深尾昌一郎会員『島津賞』を受賞

深尾昌一郎会員に、科学計測の基礎研究で著しい成果を上げた研究者に贈られる2001年度島津賞（島津科学技術振興財団）が、授与されました。

深尾会員は、大気中の風速や電子密度などの3次元構造を観測できる大型大気観測レーダ（MUレーダー）の開発・設計などの主要メンバーとして活躍し、さらにこの技術を利用して、車載型大気境界層レーダー、可搬型下部対流圏レーダーを開発、大気境界層、下部対流圏の大気の乱れの精密な構造の観測に成功、大気科学や気象予報、地球環境問題の解明に大きく寄与したことで、今回受賞されました。

国際学術交流外国人招聘の募集

国際学術交流事業の一環として、本学会が主催または共催する研究集会に参加する海外の研究者の来日旅費及び滞在費（全額または一部）を補助します。

今回対象となる集会は、平成14年10月1日から平成15年3月31日の期間に開催される地球電磁気・地球惑星圏学会秋季講演会および本学会が共催あるいは協賛する研究集会です。応募資格は、上記の講演会・研究集会で論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の外国の研究者で、当該研究者の推薦は本学会正会員が行います。招聘人数は若干名（1-2名程度）を予定しています。

所定の申請書類（学会ホームページ掲載のPDFファイル、Wordファイルまたは学会事務センター備付）に必要事項を記入の上、渡航費の見積書を添付して運営委員会（学会事務センター気付）宛、5月15日までにお送りください。

なお、補助金受領者の選考・義務等については国際学術交流事業運用規定をご参照下さい。応募資格等について不明な点は、総務までご連絡願います。

研究助成・学術賞等

* 東レ科学技術賞（平成14年度）

学術上の顕著な業績・重要な発見・発明、技術上の重要問題解決などに対し、賞状、金メダル、賞金500万円が授与されます。推薦数は本学会より2件以内で、5月29日の評議員会で推薦候補者を決定する予定です。

候補者推薦要領と推薦書用紙は平成14年7月1日以降に(財)東レ科学振興会ホームページ

(<http://www.toray.co.jp/aboutus/tsf/kagaku.html>)

からダウンロード可の予定ですので、候補者推薦要領と推薦書用紙につきましては、総務までお問い合わせの上、平成14年5月15日(水)必着で総務宛お送り願います。

* 第19回（平成14年度）井上学術賞

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた、50歳未満の研究者が対象。学術賞として、賞状及び金メダルと副賞200万円が授与されます。本学会の評議員会の議を経て候補者1名が推薦されます。推薦・応募方法につきましては、総務までお問い合わせの上、平成14年5月15日(水)必着で総務宛お送り願います。

* 第19回（平成14年度）井上研究奨励賞

平成11-13年度の過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35才未満の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者に、賞状および研究奨励金50万円を贈呈する。

受賞件数： 30件

募集方法： 博士論文を指導した研究者の推薦に基づき、学位を授与した大学の学長からの推薦

〆切： 2002年9月20日

連絡先

財団法人井上科学振興財団

〒150 東京都渋谷区猿楽町 11-20

03-3477-2738 fax 3477-2747

* 第6回（平成14年度）久保亮五記念賞

日本の統計物理学・物性科学における波及効果の大きい基礎的研究で優れた業績をあげた45才未満の若手研究者に対し、賞状、メダル及び賞金100万円を贈呈する。

受賞件数： 1件（毎年）

募集方法： 関係専門分野の有識者及び財団の久保亮五記念賞事業運営委員会委員からの推薦

〆切： 2002年6月30日

連絡先：

財団法人井上科学振興財団

〒150 東京都渋谷区猿楽町 11-20

03-3477-2738 fax 3477-2747

* 第6回井上フェロー採用希望者

基礎科学分野の新しい開拓的發展を目指す45歳未満の優秀な中堅研究者が、自身の研究計画の發展のため、自身が選定する若手研究者を井上フェローとして採用し、当該研究の推進に協力させるための助成。井上フェローは全体で10名。博士号取得者(35歳未満)。フェローには月額35万円の研究奨励金を支給(必要な場合は、往復国際航空運賃も支給)。平成15年度(平成15年4月1日、又はそれ以降)に採用、期間は2年。ただし、自己の研究室出身者以外から選定すること。

応募資格： 国公立大学の原則として大学院博士課程の教員、並びに大学共同利用期間に所属する常勤研究者。45歳未満の者。

申請受付： 2002年6月1日 - 9月20日

申請用紙請求先：

財団法人井上科学振興財団

〒150 東京都渋谷区猿楽町 11-20

03-3477-2738 fax 3477-2747

(〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5)
会合の内容 宇宙ステーション利用に関する我が国の推進体制、宇宙環境利用研究の実施状況等について、利用者の理解を深め、利用の拡大を図るとともに利用者の意見をとりまとめ、今後の宇宙ステーションの利用計画等に反映する。

主催者名 宇宙開発事業団

共催者名 文部科学省(予定)

後援団体名 総務省、国土交通省(予定)

参加費 無料

詳細問い合わせ先 (財)宇宙環境利用推進センター宇宙実験推進部 (担当:篠崎/佐藤)

〒169-8624 東京都新宿区西早稲田3-30-16

TEL: (03) 5273-2442

FAX: (03) 5273-0705

E-mail: sepd@jsup.or.jp

(参考) 宇宙開発事業団ホームページ

<http://www.nasda.go.jp/>

(財)宇宙環境利用推進センターホームページ <http://www.jsup.or.jp>

関連研究会のお知らせ

* 第9回プラズマエレクトロニクスサマースクールのお知らせ

応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会主催の第9回プラズマエレクトロニクスサマースクールが、当学会協賛で開催されます。日時、場所は、7月31日 - 8月2日、名古屋市民御岳休暇村で参加申し込み締め切りは6月22日です。内容、参加費等、詳細は、

[http://www.jsap.or.jp/~plasma/sum-schl-](http://www.jsap.or.jp/~plasma/sum-schl-01/index.html)

01/index.htmlを参照、あるいは、

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学工学研究科電子工学専攻

佐々木浩一氏宛

TEL: 052-789-3137, FAX: 052-788-6603,

E-mail: sasaki@nuee.nagoya-u.ac.jpに、

お問い合わせください。

* 第24回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

開催日時 7月16日(火) 9:30~17:30

7月17日(水) 9:30~17:30

開催場所 砂防会館 シェーンバッハ・砂防

* 第13回ゴールドシュミット国際会議

日本地球化学会、国際地球化学会、欧州地球化学連合が共同で、表記の国際会議を開催します。ゴールドシュミット国際会議は、地球内部・地球表層の組成と物質循環、大気・海洋の組成と物質循環、気候変動、環境汚染、生物地球化学、宇宙物質と地球の形成等の幅広いテーマや、これらの研究を進めるにあたって必要な分析法や実験法を対象とした、地球化学の総合的国際研究集会で、今まで欧州と米国で交互に開催されてきましたが、第13回大会は初めて我が国で開催される大会となります。

最新の情報を掲載するウェブサイトは以下のとおりです：

web site: <http://www.ics-inc.co.jp/gold2003/>

第13回大会に関するお問い合わせ等は下記宛にお願い致します。

(連絡先)

1. 登録など大会運営事務 ICS企画 e-mail: gold2003@ics-inc.co.jp

2. 組織委員会事務局

〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門

富樫茂子 気付 TEL: 0298-61-3590,

FAX: 0298-61-3748

宇宙飛翔体環境研究分科会報告

佐々木 進 (宇宙科学研究所)
臼井 英之 (京都大学宙空電波科学研究センター)
趙 孟佑 (九州工業大学工学部)
岡田 雅樹 (国立極地研究所)

21世紀に入り、宇宙利用、宇宙開発が益々盛んに行われるようになり、その手段である宇宙飛翔体の環境アセスメントが非常に重要になっています。また、宇宙天気研究に関連して、太陽からの高エネルギー粒子、フラックスによる宇宙飛翔体やシステムへの影響も定量的な理解が求められています。具体的には、飛翔体システムにおける帯電、放電、電磁界擾乱などが予想されますが、これらは飛翔体の推進系、表面材質、構造、周辺プラズマ環境に強く依存します。本研究会では、宇宙飛翔体環境に関して別々に行われている研究(材料物性工学、推進工学、電気電子工学、宇宙プラズマ物理学、宇宙電波工学など)を互いにつきあわせ、補い合うことにより、飛翔体と宇宙環境との関係を総合的に理解することを目的としています。

これまで3回の分科会を開催しました。いずれも多数のSGEPSS内外の研究者に参加していただき、飛翔体環境に関する情報交換、交流を行いました。前回は電気学会放電研究会に協賛、また平成14年5月には「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」に参加という形で、他学会との交流を積極的に進めていることも本分科会の特徴の一つです。今後、宇宙天気研究との関連も踏まえ分科会活動を継続発展させていきたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

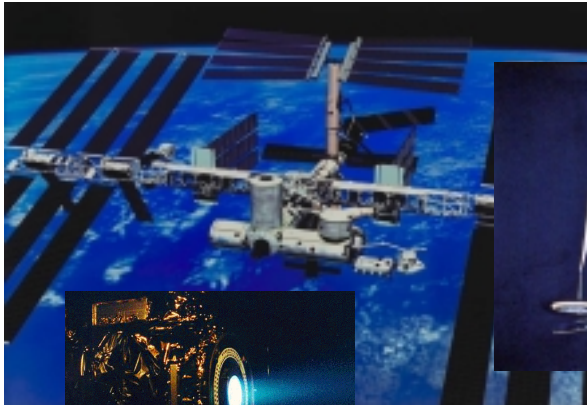
これまでの分科会開催

第1回：平成11年11月25日 国立極地研究所
第2回：平成13年1月18日 京都大学宙空電波科学研究センター
第3回：平成14年1月31日 長崎大学工学部(電気学会放電研究会)
招待講演：放電技術と宇宙機器・システム - これからの放電技術研究・教育に期待すること -
藤井治久(三菱電機)

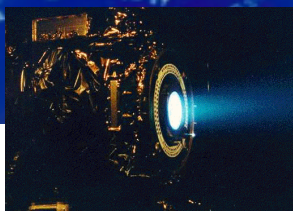
今後の分科会開催

第4回：平成14年5月29日 島根県民会館(松江)
「第23回宇宙技術および科学の国際シンポジウム」
(ISTS、日本航空宇宙学会)

大型建造物(太陽パネルなど)とプラズマ環境の相互作用
帯電、放電



宇宙電波応用(SPS)と
プラズマの電磁的相互作用



能動的プラズマ放出(電気推進、帯電中和器)
による環境への影響

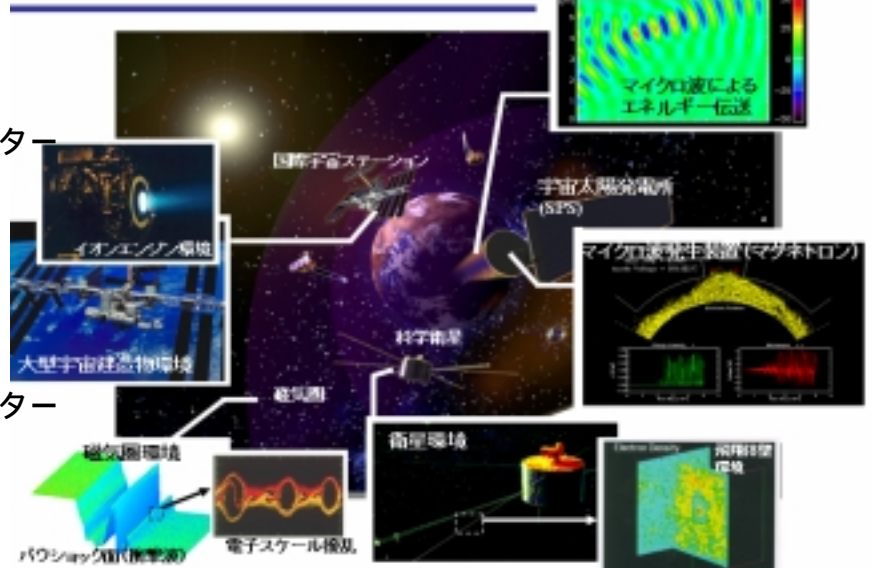
プラズマ粒子シミュレーション研究分科会報告

臼井 英之(京都大学宙空電波科学研究センター、usui@kurasc.kyoto-u.ac.jp)
岡田 雅樹(国立極地研究所、mokada@nipr.ac.jp)
上田 裕子(宇宙開発事業団、ueda.hiroko@nasda.go.jp)
村田 健史(愛媛大学工学部、murata@cs.ehime-u.ac.jp)

近年の計算機技術の発展に伴い、宇宙プラズマ解析において計算機シミュレーションが積極的に用いられるようになりました。特にプラズマの運動論的效果を取り入れた粒子モデルが今後益々用いられると予想されます。しかし、粒子モデルシミュレーションでは、主記憶容量の増大、並列化による演算高速化、電磁界境界条件や境界での粒子注入・吸収法、その他、流体モデルにはなかった問題点が多く存在します。これらの状況を踏まえ、本分科会では、プラズマ粒子シミュレーションをもっと身近な解析ツールとして関連分野の研究者に提供するために、共通する技術的な問題点や数値手法を議論し、シミュレーション研究者間の情報交換を行ってきました。

これまでに4回の研究会を開催し、若手研究者・大学院生を中心に粒子シミュレーション手法、可視化手法、研究成果について活発な議論を学会の枠を越えて行いました。また、シミュレーション手法や可視化に関する学会外からの招待講演もいくつか実施しました。今後も、分科会活動を継続発展させ、最終的にはプラズマ粒子標準コードを作成し公開したいと考えています。多くの方々のご助言をもとに分科会活動として定着させたいと考えていますのでご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。特に若手研究者・学生の積極的なご参加を希望します。

様々な宇宙環境とプラズマ粒子シミュレーション



これまでの分科会開催

- 第1回：平成10年12月16日
京都大学宙空電波科学研究センター
- 第2回：平成11年11月25日
国立極地研究所
- 第3回：平成12年6月29日
国立極地研究所
- 第4回：平成14年3月4,5日
京都大学宙空電波科学研究センター

SGEPSS外部の講演(一部)

招待講演

- 「UPACS -- CFD 共通基盤プログラム --」 榎本 俊治(航空宇宙技術研究所)
- 「HPF言語による並列プログラミング」 妹尾 義樹(NECソリューションズ)
- 「バーチャルリアリティー (VR)の変貌と数値計算への応用」 神部 勝之(株式会社ソリッドレイ研究所)

一般講演

- 「開境界粒子シミュレーションによる静電電位構造形成」 石黒静児(核融合科学研究所)
- 「接触電離プラズマを用いた開放形の粒子排出秩序の研究」 大原 渡(東北大学)
- 「電磁開放系プラズマ・コード開発」 高丸 尚教(核融合科学研究所)

開発プログラム(連絡先:村田健史(愛媛大:murata@cs.ehime-u.ac.jp))

PocketPOM (Windows上で動く電磁粒子シミュレーションシステム)、AVS可視化用インターフェイス

メイリングリスト: simulationML@kahlua.cs.ehime-u.ac.jp

SGEPSS 波動分科会

波動分科会では、地球、惑星、太陽系等で広範な周波数範囲で生起する波動現象に関して、伝搬、観測、データ解析、計測法、観測装置設計、シミュレーション、センサー、リモートセンシング、地下探査等の他、非線型現象を含む波動に関連する現象を扱っている。今後は、波動関連の他分野との連携も目指している。研究会では、中心になるテーマの招待講演のほか、通常の講演を含めて、原則として一人30分以上は割り当てて、ゆくり議論できる場を提供してきた。また、原則として予稿集を発行した。A4判2~8ページ程度でPDF、Wordなどでの電子投稿をお願いし、講演時に配布する他、プログラムとともにホームページでも公開している。結果として、近隣分野もしくは他分野であっても研究内容を理解するのに有効に役割を果たしてきたと考えている。以下に、今までの研究会の概要を紹介する。

第1回 2001年1月29日(月)~1月30日(火)
京都大学宙空電波科学研究センター
(<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/wave/wave01>)

惑星のリング等で質量の大きな微粒子を含んだプラズマであるダストプラズマを中心のテーマとし、質問を含めて50分の以下の2つの招待講演があった。Dust plasma と dusty plasma の違いや理論、シミュレーションの現状、問題点、応用など多くの人が興味を持つ形で紹介された。

- 「ダストプラズマにおける理論・シミュレーション研究」渡邊國彦(核融合研)
- 「ダストおよび強結合プラズマの実験」庄司多津男(名古屋大学工学研究科)

一般講演では、飛翔体観測、地上観測、惑星波動、粒子分布と波動といった分野で12件の発表があった。通常35分、詳しい説明があるテーマは50分として理解を深め、議論も活発であった。最後に「分科会の今後の方針について」討論した。

第2回 2001年3月19日(月) 福井国際交流会館
(http://mira.bio.fpu.ac.jp/wave_prg.html)

この研究会ではひとつのトピックをバックグラウンドのイントロダクションから時間をかけて解説してもらうチュートリアル形式の招待講演(75分)を中心とした。招待講演は、最近、宇宙天気予報などで磁気圏物理の分野でも注目されているニューラルネットワークの歴史から最近の動向までの概観と、“古くて新しい問題”として、衝撃波加速と太陽コロナ加熱の話題を新しい観点をまじえての概説という、下記の3講演であった。

- 「ニューラルネット・チュートリアル」山川修(福井県立大学)
- 「衝撃波加速」星野真弘(東京大学)
- 「太陽コロナ加熱の最近の発展」坂井純一(富

山大学)

一般講演では学生を含む若手諸氏を中心に8件の最新の研究結果が発表され議論された。旅費などの支給なしの手弁当の研究会であったが、予想外の40名近くの参加者があった。

第3回 2001年8月6日(月)~8月7日(火)
石川県立社会教育センター
(<http://totoro.ec.t.kanazawa-u.ac.jp/Kanazawa-WS/>)

URSI など主催の AP-RASC 国際会議に参加したプラズマ波動関連の海外の研究者を招き、70分のチュートリアル講演7件と著名な国内の先生方の講演が3件あった。内容を以下に示すが、関連分野であっても良く理解できた成果があった。

- “Properties of Magnetospheric Line Radiation”, C. J. Rodger (LF*EM Research, New Zealand)
- “Radio Signatures of the Origin and Propagation of CMEs”, M. J. Reiner (NASA/GSFC, USA)
- “Stochastic Growth Theory and Applications”, I. H. Cairns, P. A. Robinson (Univ. of Sydney, Australia)
- “Auroral Kilometric Radiation: A Fundamental Plasma Process” R. J. Strangeway (UCLA, USA)
- “Interacting Brownian particles model for the nonlinear diffusions”, 小川重義(金沢大)
- “Nonlinear Phenomena of Plasma Waves in Space”, 大家寛(福井工大)
- “Various Analyzing Techniques for Akebono VLF Wave Data”, 木村磐根(大阪工大)

一般講演は、ポスターのみとし、広範な範囲で23件もの発表があった。なお名古屋大学太陽地球環境研究所からの援助を得た。

第4回 2002年1月28日(月)~1月29日(火)
京都大学宙空電波科学研究センター
(<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/wave/wave04>)

多くの研究者の注目を集めている「ショックと波動」をテーマとした3件の招待講演(70分)では、様々な磁気圏境界での波動、バウショックでのMHD波動による加速、ショックでの静電孤立波に関して行われたタイトルと招待講演者を以下に示す。

- “Waves and wave-particle interactions in the different boundary layers of the Earth's magnetosphere”, X. H. Deng (RASC, Kyoto Univ.)
 - 「大振幅 MHD 波動による平行衝撃波でのイオン加速機構」杉山 徹(京大 RASC)
 - 「衝撃波遷移層における電子のエネルギーダイナミクス」島田延枝(通信総合研究所)
- 一般講演では、データ処理、工学シミュレーション、磁気嵐と波動、静電孤立波、宇宙・惑星の分野の10件の発表(40分)があり、それぞれで活発な議論があった。

(橋本弘藏, 長野勇, 森岡昭, 小嶋浩嗣, 中村匡)

「中間圏・熱圏・電離圏研究会」(略称：MTI 研究会) 活動について

「中間圏・熱圏・電離圏研究会」(略称：MTI 研究会)は、以下の趣旨のもと平成13年10月13日にSGEPSS 運営委員会において承認されました。

設立趣旨

中間圏・熱圏・電離圏は、気象学的な中性流体としての大気とマクスウェル方程式の支配する電離大気が相互作用し複雑な様相を示しています。この領域での電離大気・中性大気相互作用、あるいは化学反応とダイナミクスとの関連等が近年非常に注目を集める研究分野となっています。

この領域をターゲットとする研究者は気象学、地球電磁気学、電波工学、あるいは大気化学と様々なベースを持ち、また研究の手段も数値シミュレーション、大気大循環モデル、地上からの光学・電波観測、気球やロケットおよび人工衛星等の飛翔体観測と多岐にわたります。

このように様々なバックグラウンドを持つ研究者が相互に交流し、協力しあう場を作り、より効率的で効果的な研究活動に繋げることがこの会の趣旨です。現在進行中のプロジェクトを更に発展させるとともに、萌芽的なプロジェクト・研究活動が育つ環境づくりに主眼を置き、多くの人が自由に参加できる会を目指します。

第1回会合報告

場所：九州大学理学部 物理学第3講義室(2249号室)

日時：平成13年(2001年)11月22日(木) 12:30~13:30

参加者計：38人

議題

1. 運営について

第1回の会合のため、当分科会発足に至る経緯の説明(石井)

会の目的、位置付け、背景について

分科会設立発起人を初代の世話人とする提案がなされ、承認された。

世話人：

- 石井 守 (通信総合研究所): 代表
- 塩川和夫 (名古屋大学太陽地球環境研究所)
- 中村卓司 (京都大学宙空電波科学研究センター)
- 野澤悟徳 (名古屋大学太陽地球環境研究所)
- 藤原 均 (東北大学理学研究科)



2. 講演

江尻全機(極地研)「南極昭和基地大型大気(MST/IS)レーダー計画」

略称：PANSYレーダー(PANSYはProgram for ANtarctic SYowa という意味で、アレシボやヒカマルカやKST(キルナ・サダンキラ・トロムゾ)等々と同じくレーダーの有る位置(場

所)を明確にした”南極昭和基地プログラム”として位置付けました)

極域の電離圏・中間圏・成層圏および対流圏の大気(電離大気・中性大気)観測を中心に計画し、信楽 MU レーダーと大きさ・出力等同規模を目指す。MU レーダーでは送受信器をグループ毎に小屋に入れる設計だったが、赤道レーダーでアンテナ 1 本ごとにつける設計になった。PANSY では E A R 方式でさらに送信周波数制御等及び受信のフロントエンドの総デジタル化を目指す。皆さんの積極的な御参加、ご協力を御願います。

丸山 隆「情報交換として最近実施した HF 赤道横断伝搬の結果と東南アジアでの多点観測計画」

山本 衛「国際 EPIC シンポジウムのご案内」

2002 年 3 月 18 ~ 22 日、京大宇治キャンパスにて開催
投稿締め切り 2002 年 1 月 1 日

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/epic/> に情報掲載



久保田実「2002 年 2 月に実施される HAARP キャンペーンを紹介」

HAARP (High frequency Active Auroral Research Program) の装置概要

実験目的： トラフ領域の調査・F 層における人工大気光の生成と応答の観測・

スプラディック E 層における人工大気光の生成

実験期間：2002 年 2 月 3-17 日 (max. window 1/31-2/19)

CRL はイメージャによる大気光 (777.4nm, 630.0nm) 観測を主に担当。詳細は未定。

なお、当初予定されていた中村卓司さん(京大 RASC)の「PSMOS/MLT 国内観測の観測データベースについての議論」は本人急用のため後日検討とのこと。

なお、11月21日夜7時より、福岡市赤坂にて懇親会が執り行われ、社会人31人、学生14人計45人の参加があった。

ホームページ及びメーリングリストについて

現在、分科会ホームページ、およびメーリングリストを整備し、運営に関わる連絡・議論等を行う基盤整備がなされている。

詳細については世話人への連絡、もしくはホームページを参照されたい。

【ホームページアドレス】 <http://www2.crl.go.jp/dk/c216/MTI/index.htm>

文責：石井 守(独立行政法人通信総合研究所(現在、内閣府総合科学技術会議併任))

アラスカロケット実験研究会

会長：松本 紘， 幹事：遠山文雄， 岡田敏美

平成13年度活動報告：SRP(Student Rocket Program)4号ロケット実験

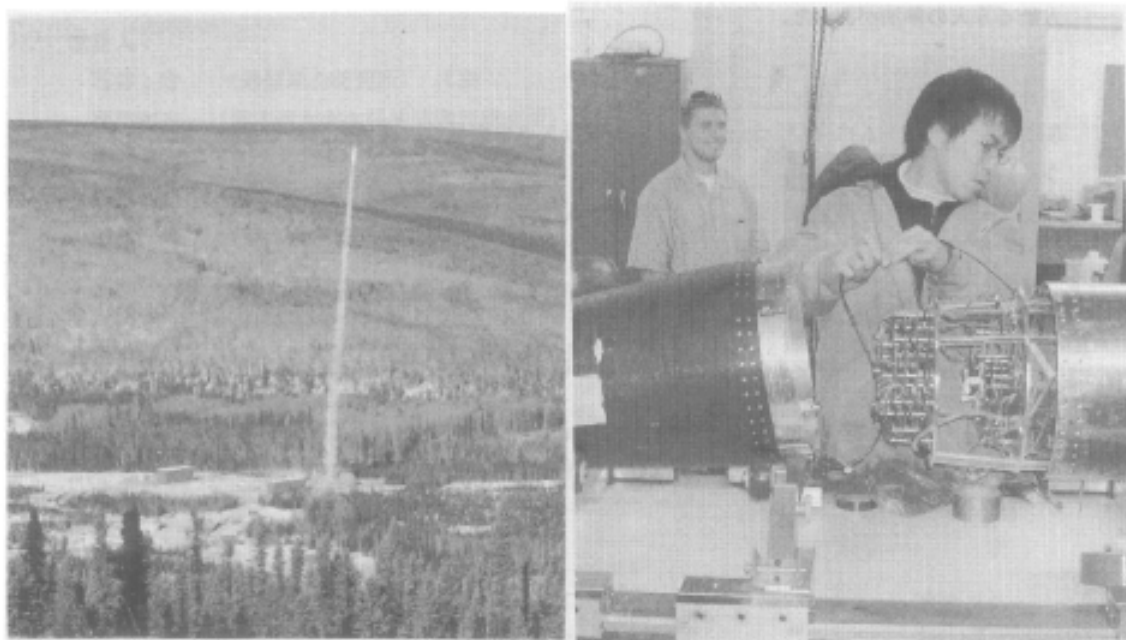
日米の学生が協力して製作したロケットは、当初予定の3月4日より2週間ほど遅れたものの数々のトラブルを乗り越えて設計とおりの飛翔および科学観測に成功しました。NASA提供のエンジン部を除いて、ほとんどすべてを学生が設計・製作し、実験データを確認できたところに本プロジェクトに特徴があります。アラスカ大学は電波透過性のあるノーズコーン、尾翼、オンボードコンピュータ、GPS、ロケーションシステム、パラシュート展開による軟着陸システムなどを、富山県立大学は下部電離層電子密度計測を、東海大学は散センサーおよび微弱磁場計測を担当しました。また、ポーカーフラット射場の近くに設置された通総研のMFレーダの同時観測も実施されました。SRP顧問でアラスカ大学のホーキンス教授の公式発表は以下のとおりです。

The SRP-4 payload was successfully launched at noon on 3/18/02 to an altitude of 89 km. The data looked very good on initial inspection. The payload separated from the rocket motor on schedule at 160 seconds. The parachute deployed higher than expected resulting in a total flight time of approximately 54 minutes. The SRP-4 payload was recovered by helicopter on Friday. --- Joseph G. Hawkins ---

今後の予定：分科会の開催

地球惑星科学関連学会2002年合同大会(2002年5月27日-31日、国立オリンピック記念青少年総合センター、代々木)期間中に分科会を開催します。日時、場所は5月29日、1600-1900、C507(20人部屋)です。今回は、SRP-4のレビュー、次期ロケット実験の内容、資金獲得法、組織について検討します。本プログラムに興味をお持ちの方は、どなたでもご参加ください。

以上



分科会活動報告 Conductivity Anomaly 研究会

2002年3月9日(土),東京大学地震研究所第1会議室にて Conductivity Anomaly 研究会が開催された。年度末にも関わらず,多数の参加者を得て盛会となった(22機関・56名)。

平成13年度は,地震予知計画の共同観測として日高地方と鳥取県西部地方において広帯域MT観測が実施された。これらの観測結果をはじめ,ローカルからグローバル・スケールまでの電気伝導度構造に関する研究発表が行われた。また,地震や火山など地殻活動に関わる電磁気現象に関する研究発表もあり,活発な議論が行われた。引き続き行われた研究打ち合わせ会では,各研究機関・プロジェクトの情報交換が行われ,次年度の共同観測に関する方針を討議したほか,固体地球電磁気学の将来計画について議論がなされた。また,地球電磁気・地球惑星圏学会の学会名変更問題についても若干の意見交換が行われた。

以下に当日のプログラムを掲載する。

開会の挨拶：上嶋誠（東大地震研）

1. 電気伝導度構造

座長：小川康雄（東工大火山流体研究セ）

01. 日高地域での広帯域MT観測

日高 2000MT 探査グループ 代表 茂木透（北大理）

02. 太田断層における広帯域 MT 観測

坂中伸也・西谷忠師（秋田大工学資源）

03. 鳥取西部・中部地域の比抵抗構造調査

宇都智史・塩崎一郎（鳥大工）・大志万直人（京大防災研）・吉田賢一（鳥大工）・笠谷貴史（京大防災研）

04. 鳥取県東部・及び兵庫県北部での比抵抗構造

笠谷貴史・大志万直人（京大防災研）・塩崎一郎（鳥大工）・中尾節郎・矢部征・藤田安良・近藤和男（京大防災研）・宇都智史・吉田賢一（鳥大工）

05. MT法3次元インバージョンのインドネシア地熱地域への適用

内田利弘（産総研）

休憩（10:45-11:00）

座長：茂木透（北大理）（11:00-12:00）

06. 沈み込み帯地震発生域の電気伝導度構造

後藤忠徳（海洋科技セ）

07. 地殻構造推定問題におけるこれからの課題

中島崇裕・横山由紀子・熊澤峰夫（サイクル機構・東濃地科学セ）

08. 1969年のgeomagnetic jerkから推定される下部マントル電気伝導度不均一性

長尾大道・家森俊彦・樋口知之・荒木徹（京大理）

昼食休憩（12:00-13:00）

2. 地殻活動電磁気学

座長：上嶋誠（東大震研）（13:00-13:45）

09. 油壺の比抵抗変化（潮汐周期）の原因について

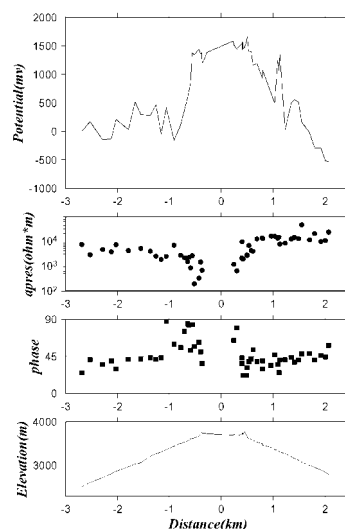
歪でなく海水の浸透による
吉野登志男・石川良宣・歌田久司・上嶋 誠・Olivier Gensane（東大震研）・笹井洋一（東京都）

10. 富士山頂火口付近の自然電位分布

相沢広記・山崎健一・大志万直人（京大防災研）

3. 研究打ち合わせ会

進行役：歌田久司（東大震研）（13:45-16:00）



図：富士山山頂部の自然電位異常（相沢広記氏提供）。上から,自然電位分布,VLF-MTの見掛け比抵抗,位相差,地形標高。

2001年夏の学校

平成13年(2001年)8月7日-9日に、岐阜県中津川市の東海地区国立大学共同中津川研修センターにて、愛知教育大学の星 博幸さんの世話により行なわれました。研究者、院生、学部生など、合計71名が参加しました(そのうち院生と学部生は約7割を占めました)。今回は岩石磁気学、古地磁気学、環境磁気学などの研究発表に加え、IODPの紹介やIODPに向けての岩石磁気・古地磁気コミュニティの対応について議論がされました。講演総数は22件でした(そのうち院生と学部生による講演は6件)。国内における研究の発表のほか、ハワイや南極における研究の発表や一般的な(教科書的な)内容の解説などもあり、地域や内容を問わない学際的な学校でした。1日目と2日目の夜には懇親会が開かれ、自己紹介や研究室紹介に加え、研究者と学生が互いに研究に対する意見や近況を述べ合うなど、たいへん盛り上がりました。

最終日には、富山大学大学院の安江健一さんの案内により、阿寺断層系とその周辺の地形地質を対象にした巡検が開かれました。30名を超える参加者が、阿寺断層の断層露頭や断層変位地形を観察し、露頭で活発に議論しました。

ラボ・アンケート

国内の古地磁気・岩石磁気ラボの現状設備に関するアンケートを行いました。研究室の現状設備を公開し、将来国内共通の利用に供するための環境を作っていくことにご賛同いただける方々に対し、具体的な情報交換の場を作ることを目的としています。それは、日本の古地磁気・岩石磁気コミュニティとしてすでに持っているファシリティを相互に有効利用できる体制の整備をはかりつつ、不足しているものを「中核的実験室」に揃えていくことが研究体制拡充のために必要と考えられるためです。

現在28の研究室の設備と連絡先が、

http://staff.aist.go.jp/toshi-yamazaki/bunka/labs_japan/list.html

で公開されています。追加・修正はいつでも受け付けています。

メーリングリスト

古地磁気・岩石磁気研究会としては特にメーリングリストを設けていませんが、連絡等には以前より熊本大学の渋谷秀敏さんによって運用されている下記のメーリングリストを利用しています。

古地磁気・岩石磁気グループではメーリングリスト GRAPE (Geomagnetism, Rockmagnetism, and Paleomagnetism E-mailing list) を運用しております。関連する分野の基本的事項の質問から、機器の問い合わせ、専門的な議論まで、様々な話題が上っています。興味のある方は、shibuya@sci.kumamoto-u.ac.jp までお知らせ下さい。

2002年夏の学校

2002年夏の学校は、神戸大学の兵頭政幸さんのお世話で開催されます。

日程：8月3,4,5日 場所：関西地区大学セミナーハウス

詳細は、GRAPE などを通じて、お知らせする予定です。

学生の皆様の講演も大歓迎です。

古地磁気・岩石磁気研究会の設置趣旨などは、SGEPSSのホームページ(分科会活動)に掲載しています。

(1)SGEPSS内の関連研究分野間の交流を進めるとともに、地質学、地震学、惑星科学、環境科学、物性物理学、生物学など関連する学会の研究者との交流を図り、古地磁気・岩石磁気に関する研究の活性化を行う。(2)海底・陸上掘削や惑星探査等の大型プロジェクトへ積極的に参画するための戦略的プランを検討する。(3)学生、若手研究者の育成を図る。

世話人：井口博夫、綱川秀夫、山崎俊嗣、鳥居雅之、渋谷秀敏

金星の科学分科会

高橋幸弘、中村正人、渡部重十

本分科会は2001年7月に承認いただき、現在は5月の合同学会で第一回の会合を持つための準備を進めている。本分科会の大きな目標として、宇宙科学研究所を中心に現在進められている金星探査ミッションを、より成果の多いものにしていくことを掲げている。本ミッションは大気のスーパローテーションやメソスケールの気象現象を調べることを主な目的にしているが、火山活動や雷放電、更に電離圏、プラズマ大気流出など、金星の表層から宇宙空間に至る広範な領域での現象を総合的に捕らえることも目指している。これらの現象は相互に影響していると考えられ、金星という一つの惑星圏を理解するためには、個々の現象の科学的位置付けと、それらの結びつきを整理する必要がある。一方、直接探査は有力な研究手法であるが、観測器の重量、観測期間などに制限があり、地上望遠鏡との相補的な観測を実施することではじめて、その価値を何倍にも高めることができる。

こうした目標を達成するためには、大気力学/化学、プラズマ(電離圏)、固体惑星、地上観測(天文)、大気電気などの専門家が一つの研究グループを形成し、継続的な議論を通して、科学的/技術的課題を整理しそれを解決するための戦略を練っていかねばならない。そのための方法として、本分科会では他の学会の関連する研究者に呼びかけ、各学会の中で、本分科会に相当する、公式に承認された分科会或いは連絡会を設置していただくよう働きかけてきた。これまでのところ、惑星科学会、気象学会、天文学会等で前向きに検討が進められており、近く正式な形で分科会(連絡会)を発足できそうな運びとなってきた。本分科会の特徴の一つは、これら4学会が全く対等な立場で参加する点にあり、これが金星という対象を多角的に研究するための一つの研究形態として提案できればと希望している。今後は、会合やHPによる情報交換と平行して、総合的に観測戦略を立案し、また複数学会の会員が気軽に議論に参加できる場所を提供していきたいと考えている。

グローバル地磁気観測分科会活動報告

湯元清文

日 時：平成13年11月23日11:00~12:00

場 所：九州大学箱崎キャンパス理学部数理2階講義室(2255会議室)

出席者：湯元清文(九州大学) 西田泰典(北海道大学) 三品正明(東北大学) 林 幹治(東京大学) 歌田久司(同) 荒木 徹(京都大学) 家森俊彦(同) 能勢正仁(同) 大志万直人(同) 橋本武志(同) 長尾年恭(理化学研究所、代理：佐柳敬造) 牧広篤(地磁気観測所)

グローバル地磁気観測分科会では分科会に直接関連する国際活動や国内活動について、以下のような議論がなされた。

- (1) 国際地球電磁気・超高層大気物理学協会(IAGA)の第 XII 回地磁気観測データ処理技術会議地磁気観測ワークショップ2004の日本開催について審議され、WS内容、国内組織委員会(案)などが検討した結果、湯元を委員長とする国内組織委員会の設立が決まった。委員については国内関係大学、関係機関からの参加を得て、今後具体的な実施計画を検討して行く。
- (2) 第17期日本学術会議・地球電磁気研究連絡委員会・地磁気観測作業委員会で議論され、各機関から出された「地磁気観測-問題と果たすべき役割-」についての報告書は、引き続き改訂していく。
- (3) 日本学術会議、学会、大学、関係機関での動きについて意見交換がなされた。
- (4) 次回の会合は、平成14年5月27~31日に開催される合同学会期間中に行う。

人事公募

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

公募人員：教授 1名

所 属：大気圏環境部門

公募分野：大気科学

現在、当研究所では、地球大気を太陽 - 地球システムの中でとらえて、大気科学の研究を進めております。今回の公募では、太陽活動が地球大気に与える影響を中心に大気科学の研究を指導的に進めていただける方を募集します。また、大学院等の教育・研究指導に熱意をもち、全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解して、共同利用の推進に意欲的な方を希望します。

着任時期：決定次第できるだけ早い時期

資 格：博士の学位を有すること。

提出書類：(1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 業績リスト、(4) 主要論文別刷、(5) 研究計画書、(6) 自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面、(7) 他薦の場合は2名の方からの推薦書。

公募締切：平成14年5月31日(金)(必着)
書類送付先：

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3 - 1 3
名古屋大学太陽地球環境研究所長
上出 洋介

問合せ先：(1) 当該部門の状況等について

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3 - 1 3
名古屋大学太陽地球環境研究所
大気圏環境部門教授 松見 豊
TEL：0533-89-5192
FAX：0533-89-5593
E-mail：matsumi@stelab.nagoya-u.ac.jp

(2) 提出書類について

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3 - 1 3
名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛
TEL:0533-89-5151 ~ 5152

選 考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

その他：封筒の表に「教官応募書類在中」と朱書きし、書留にて郵送願います。

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

公募人員：助手 1名

所 属：総合解析部門

公募分野：太陽地球系データの総合解析、モデリング/シミュレーションによる領域間相互作用の研究。特に、太陽圏/磁気圏/電離圏過程の研究。全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。

着任時期：平成14年度のできるだけ早い時期

資 格：大学院修士課程修了又は同等以上

提出書類：(1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 業績リスト、(4) 主要論文別刷、(5) 研究計画書、(6) 自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面、(7) 他薦の場合は2名の方からの推薦書。

書類送付先：

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3 - 1 3
名古屋大学太陽地球環境研究所長
上出 洋介

公募締切：平成14年5月31日(金)(必着)
問合せ先：(1) 当該部門の状況等について

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3 - 1 3
名古屋大学太陽地球環境研究所
総合解析部門主任 品川 裕之
TEL：0533-89-5185
Fax：0533-89-5090
E-mail：sinagawa@stelab.nagoya-u.ac.jp

(2) 提出書類について

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3 - 1 3
名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛
TEL：0533-89-5151 ~ 5152

選 考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

その他：封筒の表に「総合解析部門教官公募書類在中」と朱書きし、書留にて郵送願います。

公募人員：助手 1名

所属：電磁気圏環境部門（東山分室）

公募分野：熱圏・電離圏・磁気圏物理学

当研究部門では、欧州非干渉散乱（EISCAT）レーダー等の大型レーダーと大気光測定装置等を用いた地上観測、及び人工衛星利用等の手法により熱圏・電離圏・磁気圏環境の研究を行っています。今回の公募では、電波的・光学的観測手法を用いて、電磁気圏環境の研究を進展させるとともに、全国共同利用研究所としての任務を十分に理解し、共同利用の促進に積極的に取り組んでいただける方を希望します。

着任時期：決定後なるべく早い時期

資格：大学院修士課程修了又は同等以上

提出書類：(1)履歴書、(2)研究歴、(3)業績リスト、(4)主要論文別刷、(5)研究計画書、(6)自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面、(7)他薦の場合は2名の方からの推薦書。

書類送付先：

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所長
上出 洋介

公募締切：平成14年7月1日（月）（必着）

問合せ先：(1)当該部門の状況等について

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室
電磁気圏環境部門教授 藤井 良一
TEL：052-789-4309
Fax：052-789-4311

(2)提出書類について

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所庶務掛
TEL：0533-89-5151～5152

選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

その他：封筒の表に「電磁気圏部門教官公募書類在中」と朱書きし、書留にて郵送願います。

新規学位取得者リスト

この1-2年間（2000年-2002年3月頃）に学位を取得された方から情報を提供していただき、リストを作成しました。以下の順番で、学位取得者を掲載します。なお、順番は情報の提供順です。次号でもリストを掲載しますので、追加情報をお寄せ下さいますようお願いいたします。

0. 氏名
1. 学位取得機関名、
2. 学位名、
3. 論文題名
4. 取得年月日

< 博士 >

上野玄太、京都大学、博士（理学）、Study of magnetotail dynamics including the effects of normal field and nonequilibrium plasma、2001年11月26日

魚住禎司、九州大学、理学博士、Study on generation and propagation mechanisms of Pi 2 magnetic pulsations -Toward the identification of the substorm onset region、2000年9月25日

香川 晶子、奈良女子大学、博士（理学）、Study on ozone loss in the Arctic stratosphere by utilizing a photochemical box model and trajectory analysis、2002年3月

坂野井和代、東北大学、理学博士、Studies on the Generation Mechanisms of Flickering Auroras Using High-speed Imaging Photometer Observations、2002年3月25日

高野博史、金沢大学、博士（工学）、地球磁気圏尾部におけるContinuum Radiationの発生・伝搬に関する研究、2002年3月22日

井町智彦、金沢大学、博士（工学）、科学衛星搭載用電界観測アンテナの特性解析、2002年3月22日

小川泰信、名古屋大学、理学博士、Generation Mechanisms of Ion Upflow in the Polar Topside Ionosphere、2002年3月25日

山本裕二、東京工業大学、博士(理学)、Reliability of paleointensity determination methods and the paleomagnetism of the Society Islands: Implications for the last 4 Ma geomagnetic dipole moment、2002年3月26日

江尻省、名古屋大学、理学博士、Mesospheric Gravity Waves Observed by All-Sky Airglow Imagers、2002年3月25日

寺田直樹、京都大学、博士(理学)、Theoretical Study of the Solar Wind-Venus Ionosphere Interaction with Boundary-Fitted Global Hybrid Simulation Code、2002年3月25日

宮下幸長、京都大学、博士(理学)、Variations in the Near and Middistant Magnetotail Associated with Substorms Obtained by Spacecraft Observations、2002年3月25日

三好由純、東北大学、博士(理学)、Dynamics of the outer radiation belt associated with magnetic storms、2001年3月26日

中川史丸、東北大学、博士(理学)、Study on source characteristics of Jovian hectometric radio emissions、2002年3月25日

高橋慎、東北大学、博士(理学)、Study on dynamical features of extended sodium distributions originated from Io、2001年3月26日

野澤宏大、東北大学、博士(理学)、Study on the variability of the Jovian Io plasma torus using ground-based observations of sulfur ion emissions、2002年3月25日

中田裕之、京都大学、博士(理学)、The standing toroidal mode oscillations in the magnetosphere-ionosphere system、2000年3月24日

松清修一、九州大学、理学博士、Wave-particle and wave-wave interactions in a high energy astrophysical plasma、2002年3月

蔵満康浩、九州大学、理学博士、Acceleration and thermalization of charged particles by large amplitude MHD waves in space plasma、2002年3月

北村健太郎、九州大学、博士(理学)、Study on Storm Sudden Commencement by means of the satellite and Ground-based Observation Network、2001年09月27日

堀智昭、名古屋大学、博士(理学)、Plasma Transport and Energization in the Earth's Magnetosphere、2001年11月30日

大山伸一郎、名古屋大学、理学博士、Dynamical coupling of plasma motions and neutral winds in the presence of short time-scale (10-90min) wavelike structures in the auroral ionosphere、2001年3月

田中良昌、九州大学、理学博士、Study on 2-D Structure of Coherent Pc 3 Magnetic Pulsations by Ground-Based Network Observations、2000年9月25日

浅野芳洋、東京大学、博士(理学)、Configuration of the thin current sheet in substorms、2001年12月10日

諸岡倫子、東京大学、博士(理学)、On the current-voltage relationship in the upward acceleration region at high latitudes、2001年9月17日

瀧澤慶之、東京大学、博士(理学)、Development of a new generation EUV imaging spectrometer for space plasma observation、2002年3月11日

長谷川洋、名古屋大学、博士(理学)、Entry Process of Solar Plasma into the Earth's Magnetotail、2002年3月25日

< 修士 >

鈴木克、東北大学、修士(理学)、衛星イオ近傍領域におけるナトリウム雲分布の研究、2001年3月27日

- 高見沢広司、東北大学、修士(理学)、水星ナトリウム大気の分布に関する研究、2001年3月27日
- 宮本裕行、東北大学、修士(理学)、あけぼの衛星によって観測される極域広帯域静電波動の出現特性に関する研究、2001年3月27日
- 湯浅健、東北大学、修士(理学)、Jovian Anomalous Continuum (JAC)放射の出現特性とその放射メカニズムの研究、2001年3月27日
- 神田隆之、東北大学、修士(理学)、Study on bursty electron acceleration signatures in the diffuse aurora region、2002年3月26日
- 富山広一、東北大学、修士(理学)、磁気圏朝側ULF波動に伴うプラズマ密度・温度の倍周波数振動現象の研究、2002年3月26日八重樫諭代、東北大学、修士(理学)、木星赤外H3+オーロラ及び極域大気発光の強度変動、2002年3月26日
- 尾花由紀、九州大学、修士(理学)、地磁気脈動の南北非対称性解析に基づく電離層効果の研究、2001年3月26日
- 山口類、九州大学、修士(理学)、A Study of the Substorm Energy Storage and Release Processes in the Magnetotail、2000年3月27日
- 阿部修司、九州大学、理学修士、Plasma pause Detection by the Analysis of High-latitude Pc 4-5 Spectral Patterns、2001年3月26日
- 高崎聡子、九州大学、修士(理学)、太陽風活動度と低緯度(L~1.3)におけるPc3帯地磁気脈動現象との関連性について、2002年3月31日
- 川村誠治、京都大学、修士(情報学)、MUレーダー観測に基づくF領域子午面中性大気風速の研究、2000年3月23日
- 大西真紀子、九州大学、理学修士、非定常な超臨界垂直衝撃波、2002年3月
- 永田忠史、九州大学、理学修士、マグネトテイルの自己組織化臨界状態、2002年3月
- 山本英子、九州大学、工学修士、Geotail衛星データを用いた宇宙プラズマ中磁気流体乱流の位相相関解析、2002年3月
- 岡光夫、東京大学、修士(理学)、Pickup Helium Ions of Interstellar Origin: Velocity Distributions Upstream from the Bow Shock、2002年3月29日
- 水田孝信、東京大学、修士(理学)、New Wave Heating Process of Heavy Ions in Multi-Component Plasmas、2002年3月29日
- 村地哲徳、東京大学、修士(理学)、Error Evaluation of Planetary Atmospheric Motion Vectors by Statistical Presumption Technique、2002年3月29日
- 小泉宜子、東京大学、修士(理学)、ファイル・チャフを用いた中間圏界面付近の風系観測による小規模大気重力波の検出、2002年3月29日
- 川田成人、東京大学、修士(理学)、A New Method for Shock Shape Determination: Multi-satellite Triangulation、2002年3月29日
- 一場伸元、東京大学、修士(理学)、磁気赤道域630.0nm夜間大気発光現象の研究-ヴェトナム南部における全天撮像観測の結果-、2002年3月29日
- 石井真一、東京大学、修士(理学)、観測ロケットによるカスプ高緯度側低エネルギー荷電粒子の観測、2002年3月29日
- 湊川宏、東京大学、修士(理学)、惑星間空間磁場に依存する地球磁気圏の数値シミュレーション、2002年3月29日
- 成田康人、東京大学、修士(理学)、Study on the Development of Transpolar Arcs --- Statistics and Event Studies of ASTRID-2, DMSP, FAST, POLAR-UVI, and SuperDARN、2002年3月29日
- 小田琢也、東京大学、修士(理学)、電子温度測定における飛翔体シースの影響とその影響の除去法について、2002年3月29日

内島仁志、東京大学、修士（理学）、大気重力波による大気光強度変動シミュレーション、2002年3月29日

鈴木利和、東京大学、修士（理学）、ロケット衝撃波による酸素原子密度測定誤差の研究、2002年3月29日

浜田尚子、東京大学、修士（理学）、窒素振動温度測定器の室内実験による較正と解析手法の改良、2002年3月29日

名簿改訂のお知らせ

2002年6月に学会名簿を更新します。記載事項の変更のある方は、早めに届けをお出し下さい。

訃報

慎んでご冥福をお祈りいたします。

羽倉幸雄様 3月8日ご逝去

SGEPSS Calendar

[2002年]	
4月22日～26日： 27th European Geophysical Society	Nice, France
5月28日～6月1日： AGU 2002 Spring Meeting	Washington D.C., U.S.A.
5月27日～31日： 地球惑星科学関連学会合同大会、	代々木オリンピックセンター（東京）
7月9日～12日： Western Pacific Geophysics Meeting	Wellington New Zealand
7月30日～31日： 第26回極域における電離圏磁気圏総合観測シンポジウム	国立極地研究所（東京）
8月17日～24日： the 27th General Assembly of the International Union of Radio Science	Maastricht
10月10日～19日： 34th COSPAR Scientific Assembly(2nd World Space Congress)	Houston U.S.A.
11月11日～14日： 第112回総会・講演会	電気通信大学（東京）
12月6日～10日： AGU 2002 Fall Meeting	San Francisco U.S.A.
[2003年]	
4月6日～4月11日： EGS-AGU-Joint Assembly	Nice, France
6月30日～7月13日： IUGG 2003	Sapporo Japan

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 荒木 徹 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

TEL: 075-753-3951 FAX: 075-722-7884 e-mail: araki@kugi.kyoto-u.ac.jp

総務 家森 俊彦 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

TEL: 075-753-3949 FAX: 075-722-7884 e-mail: iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp

庶務 小原隆博（会報担当） 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1

独立行政法人通信総合研究所 電磁波計測部門

TEL: 042-327-6431 FAX: 042-327-6661 e-mail: T.Obara@crl.go.jp

運営委員会 〒113-8622 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 学会事務センター気付

TEL: 03-5814-5810 会員業務（入退会、住所変更等、会費、会誌）

TEL: 03-5814-5801 学会業務（庶務、窓口、渉外）

FAX: 03-5814-5820

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。